

SAP.E-C4HYCP-12.v2023-12-12.q29

試験コード:	E-C4HYCP-12
試験名称:	Certified Product Support Specialist - SAP Commerce Cloud
認定資格:	SAP
無料問題数:	29
バージョン:	v2023-12-12
アクセス数:	283
ページビュー数:	290
https://www.jpnpdf.com/SAP.E-C4HYCP-12.v2023-12-12.q29-mondaishu.html	

最新問題: 1

SAP Cloud Integration 用に OAuth2 を設定する場合、何をする必要がありますか?注: この質問には 3 つの正解があります。

- A. SAP Commerce Backoffice で ESBMessaging.Send ロールを割り当てます。
- B. ImpEx を実行して、OAuthClientDetails および ExusedOAuthCredential タイプのデータを SAP Commerce Backoffice にインポートします。
- C. SAP Commerce Backoffice で ROLE_CLIENT または ROLE_TRUSTED_CLIENT を割り当てます。
- D. SAP Commerce Backoffice でシークレットクライアント認証情報を作成します。
- E. SAP BTP コックピットでトークン エンドポイント URL を構成します。

Answer: C,D,E (メッセージを残す)

最新問題: 2

製品サポートは次のうちどれを回避策とみなしますか?注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. サポート エンジニアは、影響を受ける機能のコードを変更する方法に関するガイドラインを提供します。
- B. サポート エンジニアは、影響を受ける機能の少なくとも基本的なプロセスを解決する代替ソリューションを提供します。
- C. サポート エンジニアは、SAP Commerce のデフォルトの動作をオーバーライドするカスタム Spring Bean を実装および構成する方法に関するガイドラインを提供します。
- D. サポート エンジニアは、修正を含む公式 SAP Commerce パッチをお客様に提供します。

Answer: C,D (メッセージを残す)

最新問題: 3

SAP BTP Extensions の統合にはどのような利点がありますか?注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. API レジストリ モジュールに依存する SAP Commerce Cloud のカスタマイズ レイヤー
- B. バックオフィスに基づく SAP Commerce Cloud の代替の独立したアプリケーション
- C. 将来の処理のために顧客とのやり取り、コンテキスト、行動をキャプチャする分析レイヤー
- D. SAP Commerce Cloud の標準機能をアップグレード性を損なうことなくカスタマイズするマイクロサービス

Answer: C,D (メッセージを残す)

SAP BTP Extensions 統合の利点は、アップグレード可能性を損なうことなく、SAP Commerce Cloud の標準機能をカスタマイズする将来の処理およびマイクロサービスのために、顧客との対話、コンテキスト、および行動を捕捉するための分析レイヤーです。分析レイヤーは、SAP BTP Extensions 統合の一部である SAP Commerce Cloud のコンテキスト駆動型サービスによって提供されます。マイクロサービスは、SAP BTP Extensions 統合の一部でもある SAP Commerce Cloud Extension Pack によって提供されます。SAP BTP Extensions の統合では、API レジストリ モジュールに依存する SAP Commerce Cloud のカスタマイズ レイヤーは提供されません。また、バックオフィスに基づく SAP Commerce Cloud の代替の独立したアプリケーションも提供されません。

最新問題: 4

SAP Cloud Integration 用に OAuth2 を設定する場合、何をする必要がありますか?注: この質問には 3 つの正解があります。

- A. SAP Commerce Backoffice で ROLE_CLIENT または ROLE_TRUSTED_CLIENT を割り当てます。
- B. SAP BTP コックピットでトークン エンドポイント URL を構成します。
- C. SAP Commerce Backoffice で ESBMessaging.Send ロールを割り当てます。
- D. ImpEx を実行して、OAuthClientDetails および ExusedOAuthCredential タイプのデータを SAP Commerce Backoffice にインポートします。
- E. SAP Commerce Backoffice でシークレットクライアント認証情報を作成します。

Answer: A,D,E (メッセージを残す)

SAP Cloud Integration 用に OAuth2 を設定するときに実行する必要がある手順は、SAP Commerce Backoffice で ROLE_CLIENT または ROLE_TRUSTED_CLIENT を割り当てること、ImpEx を実行して SAP Commerce Backoffice に OAuthClientDetails および ExusedOAuthCredential タイプのデータをインポートすること、および SAP でシークレットクライアント資格情報を作成することです。コマースバックオフィス。これらの手順は、OAuth2 トークンを使用して SAP Commerce Cloud と SAP Cloud Integration の間でロールベースの認証を有効にするために必要です。

最新問題: 5

SAP Commerce プラットフォームのバージョンはどこで確認できますか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. bin/platform/build.number ファイル内。
- B. コマンドラインで ant-version を実行します。
- C. bin/platform/project.properties ファイル内。
- D. 管理コンソール内。

Answer: A,B (メッセージを残す)

最新問題: 6

SAP Commerce キャッシュでは、製品タイプの無効化はどのように行われますか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. インポート中に更新されたキャッシュされた製品アイテムは、接続されているすべての SAP Commerce クラスター ノードで無効になり、次の使用時にデータベースから再ロードされます。
- B. 結果セットが変更された可能性があるため、製品タイプが含まれるキャッシュされたすべての FlexibleSearch 結果が無効になります。
- C. インポート中に更新されたキャッシュされた製品アイテムは、インポートが実行されているノードでのみ無効になります。
- D. 結果セットが変更された可能性があるため、キャッシュされたすべての FlexibleSearch 結果はクエリ結果領域から無効になります。

Answer: A,B (メッセージを残す)

SAP Commerce キャッシュでは、接続されているすべての SAP Commerce クラスター ノードでインポート中に更新されたキャッシュされた製品アイテムを無効化し、製品タイプが含まれるすべてのキャッシュされた FlexibleSearch 結果を無効にすることにより、製品タイプに対して無効化が行われます。これにより、キャッシュには有効なデータのみが保持され、クエリが一貫した結果を返すことが保証されます。無効化はインポートが実行されているノードに限定されず、クエリ結果領域からキャッシュされたすべての FlexibleSearch 結果にも影響しません。参考 :1

最新問題: 7

顧客がエラーを報告し、ログ ファイルの次のスニペットを提供します。jvm1 | srvmain | 2013/11/15 21:36:38.829 | エラー [ImpExWorker<1/4>] (000000RS-ImpEx-Import) [MultiThreadedImpExImportReader] メイン スクリプトの 11 行目: ワーカー 1 でエラー com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerException が発生しました: PRIMARY KEY 制約の違反

PK 3819157796645776366」。オブジェクト dbo.users」に重複キーを挿入できません。重複キーの値は (8796126019588) です。jvm1 | サーバーメイン | 2013/11/15 21:36:38.876 | de.hybris.platform.jalo.JaloSystemException: com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerException: PRIMARY KEY 制約 PK

3819157796645776366」の違反。オブジェクト `dbo.users` に重複キーを挿入できません。重複キーの値は (8796126019588) です。[HY--1]エラーの根本原因は何でしょうか? 注: この質問には正解が 2 つあります。

- A. データベース エンジンが一意ではないことを検証し、例外を報告します。
- B. 現在の PK シーケンス値が壊れています。
- C. SAP Commerce はキーが一意ではないことを検証し、例外をレポートします。
- D. データベースでは一意のインデックスの代わりに主キーが使用されます。

Answer: A,C (メッセージを残す)

最新問題: 8

iFlow を使用する場合、何を設定する必要がありますか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. iFlow 認証タイプを証明書ベースに設定します。
- B. iFlowの受信者アドレス設定とプロキシタイプ設定を設定します。
- C. AuthGroup.IntegrationDeveloper ロールを SAP Commerce ユーザーに割り当てます。
- D. AuthGroup.IntegrationDeveloper ロールを SAP Cloud Integration テナントに割り当てます。

Answer: A,B (メッセージを残す)

iFlow を使用するときに必要がある設定は、iFlow 認証タイプを証明書ベースに設定し、iFlow の受信者アドレス設定とプロキシタイプを設定することです。iFlow は、SAP Commerce Cloud と SAP Cloud Integration の間の統合シナリオをグラフィカルに表現したものです。これらのシステム間でメッセージがどのように交換されるかを定義します。安全な通信に証明書を使用するには、iFlow 認証タイプを設定する必要があります。また、iFlow の受信者アドレス設定とプロキシタイプ設定を構成して、メッセージを SAP Commerce Cloud に送信する方法を指定する必要があります。これは iFlow の使用に関係しないため、AuthGroup.IntegrationDeveloper ロールを SAP Commerce ユーザーまたは SAP Cloud Integration テナントに割り当てないでください。参考 :3

最新問題: 9

Service Layer Direct を使用するにはどのプロパティを設定できますか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. `local.properties` で `persistence.legacy.mode` を `False` に設定します。
- B. `local.properties` で `persistence.legacy.mode` と `servicelayer.prefetch` を `False All` に設定します。
- C. `ImpEx` ファイルで `sld.enabled` 修飾子を `True` に設定します。
- D. `core-spring.xml` で `persistence.legacy.mode` を `False` に設定します。

Answer: A,C (メッセージを残す)

最新問題: 10

SAP Commerce で JDBC ログを有効にするための推奨ツールは何ですか?注: この質問には 3 つの正解があります。

- A. 構成プロパティファイル
- B. インプレッション
- C. バックオフィス管理コックピット
- D. SAP Commerce 管理コンソール
- E. Java コード

Answer: A,C,D (メッセージを残す)

SAP Commerce で JDBC ログを有効にするために推奨されるツールは、設定プロパティファイル、Backoffice Administration Cockpit、および SAP Commerce Administration Console です。これらのツールを使用する

と、jdbc.log.enable、jdbc.log.level、jdbc.log.file.path、jdbc.log.trace など、JDBC ログに関連するさまざまな構成パラメータを設定できます。これらのツールを使用して、JDBC ログファイルを表示またはダウンロードすることもできます。SAP Commerce で JDBC ログを有効にするために ImpEx または Java コードを使用しません。参考 :1

最新問題: 11

あなたの顧客は、SAP Commerce システムが本番環境でクラッシュするというインシデントを報告しました。何を要求しますか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. システムの再起動後に取得されたスレッド ダンプ
- B. 問題を再現するための具体的なシナリオ
- C. 本番システムからのデータベース ダンプ
- D. クラッシュ直前に取得されたスレッド ダンプ

Answer: B,C (メッセージを残す)

最新問題: 12

JDBC ログを有効または無効にする変更をどのように保持しますか?

- A. SAP Commerce 管理コンソール
- B. バックオフィス管理コックピット
- C. 構成プロパティファイル
- D. Java コード

Answer: C (メッセージを残す)

最新問題: 13

Backoffice Framework 構成で自動リセットを有効にします。リセットはいつトリガーされますか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. 再ログイン後
- B. 次回コンパイル後
- C. 次回のサーバー起動時
- D. ログアウト後

Answer: ([解答を表示する](#))

最新問題: 14

システムのパフォーマンスを分析しているときに、スレッド ダンプに次のエントリが表示されます:ajp-8019- 43" nid=183 state=WAITING - <0x515a41f6> を待機中
(org.apache.tomcat.util.net.JioEndpoint\$Worker) - <0x515a41f6>
(org.apache.tomcat.util.net.JioEndpoint\$Worker) で java.lang.Object.wait(Native Method)
で java.lang.Object.wait(Object.java :485) でロックされました。
apache.tomcat.util.net.JioEndpoint\$Worker.await(JioEndpoint.java :471)at
org.apache.tomcat.util.net.JioEndpoint\$Worker.run(JioEndpoint.java :497)at
java.lang.Thread。run(Thread.java:662)ロックされたシンクロナイザー: count = 0 このス
レッド ダンプをどう解釈しますか?

- A. スレッドは受信接続を待機しています。
- B. JVM オプション maxAJPThreads が小さすぎるため、同時リクエストを処理できません。
- C. Tomcat AJP パラメータ maxThreads が小さすぎるため、同時リクエストを処理できません。
- D. スレッドがブロックされ、ジョブを実行できないため、システムがクラッシュしようとしています。

Answer: ([解答を表示する](#))

最新問題: 15

バグ修正はパートナーや顧客にどのように提供されますか?

- A. SAP Commerce では、特定のバグを修正する最適な方法を説明するコード修正が SAP Notes に提供されます。
- B. SAP Commerce は、バグ修正を含む拡張機能を提供します。
- C. SAP Commerce は、バグ修正とセキュリティ パッチのみを含むパッチ リリースを提供します。
- D. SAP Commerce は、特定のバグを修正する拡張機能の Hot Fix と呼ばれる小さな jar アーカイブを提供します。

Answer: A,C ([メッセージを残す](#))

最新問題: 16

impex.legacy.mode プロパティを True に設定するとどうなりますか?注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. ServiceLayer インターセプターとバリデーターは、インポート/エクスポート プロセス中にトリガーされます。
- B. INSERT、UPDATE、および REMOVE 操作は、インポート中に ModelService によって実行されます。

C. ServiceLayer インターセプターとバリデーターは、インポート/エクスポート プロセス中にトリガーされません。

D. INSERT、UPDATE、および REMOVE 操作は、インポート中に ModelService によって実行されません。

Answer: C,D (メッセージを残す)

impex.legacy.mode プロパティを True に設定すると、ImpEx のレガシー モードが有効になります。これは、インポート/エクスポート プロセス中に ServiceLayer インターセプターとバリデーターがトリガーされず、INSERT、UPDATE、および REMOVE 操作がトリガーされないことを意味します。インポート中に ModelService によって実行されます。レガシー モードは、SAP Commerce の ServiceLayer をバイパスしてデータをインポートする迅速かつ大雑把な方法です。パフォーマンスが向上する可能性があります、データの不整合やエラーのリスクも増加します。参考 2

有効な **E-C4HYCP-12** 問題集は GoShiken.com が提供された合格しやすい E-C4HYCP-12 試験問題集！ GoShiken.com が最新の **E-C4HYCP-12** 試験問題集を提供しています。GoShiken.com E-C4HYCP-12 試験問題は最新で、解答が正確でございます。最新の GoShiken.com E-C4HYCP-12 問題集をゲットする人はこちら：

<https://www.goshiken.com/SAP/E-C4HYCP-12-mondaishu.html> (**4030%OFF**問題集溶と正解付きで **30%w** 特別割引コード: **Freepdfdumps**)

最新問題: 17

カタログ同期の問題をトラブルシューティングする場合、最初にどのファイルを確認しますか？ 注: この質問には 3 つの正解があります。

A. localextensions.xml ファイル

B. local.properties ファイル

C. JDBC ログファイル

D. データベースダンプファイル

E. メディア ダンプ ファイルを同期します。

Answer: B,D,E (メッセージを残す)

最新問題: 18

SAP Commerce Cloud で CronJob を実行するには、何をする必要がありますか？

A. CronJob 内の特定のジョブ実装への参照を設定します。

B. CronJob をノードのグループに割り当て、構成されたノード グループ上で実行します。

C. 指定した時刻にトリガーを実行するように設定します。

D. 指定された ID を持つノード上で実行する CronJob を割り当てます。

Answer: A (メッセージを残す)

実行する前に、CronJob 内で特定のジョブ実装への参照を設定する必要があります。ジョブ実装は、CronJob のロジックとパラメーターを定義します。他のオプションは、CronJob の実行には必須ではありません。

最新問題: 19

iFlow を使用する場合、何を設定する必要がありますか?注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. iFlow 認証タイプを証明書ベースに設定します。
- B. AuthGroup.IntegrationDeveloper ロールを SAP Commerce ユーザーに割り当てます。
- C. iFlowの受信者アドレス設定とプロキシタイプ設定を設定します。
- D. AuthGroup.IntegrationDeveloper ロールを SAP Cloud Integration テナントに割り当てます。

Answer: C,D ([メッセージを残す](#))

最新問題: 20

Backoffice Framework 構成で自動リセットを有効にします。リセットはいつトリガーされますか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. 次回コンパイル後
- B. ログアウト後
- C. 次回のサーバー起動時
- D. 再ログイン後

Answer: B,D ([メッセージを残す](#))

Backoffice Framework 構成の自動リセットでは、ユーザーがログアウトして再度ログインした後、ユーザー設定がデフォルト値にリセットされます。リセットはコンパイルやサーバーの起動によってトリガーされません。

最新問題: 21

JDBC ログを有効または無効にする変更をどのように保持しますか?

- A. SAP Commerce 管理コンソール
- B. Java コード
- C. 構成プロパティファイル
- D. バックオフィス管理コックピット

Answer: C ([メッセージを残す](#))

JDBC ログを有効または無効にする変更を保持するために使用するツールは、構成プロパティ ファイルです。このファイルを使用し

て、jdbc.log.enable、jdbc.log.level、jdbc.log.file.path、jdbc.log.trace などの JDBC ログに関連するさまざまな構成パラメータを設定できます。これらのパラメータはサーバーの再起動後も保持され、ソース コードを変更せずに変更できます。JDBC ログを有効または無効にするための変更を永続化するために、SAP Commerce 管理コンソール、Java コード、またはバックオフィス管理コックピットを使用しません。参考 2

最新問題: 22

SAP Commerce は LDAP プロトコルをどのように使用しますか?注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. SAP Commerce は LDAP クエリ結果を ImpEx に変換します。
- B. SAP Commerce は、外部 LDAP システムからユーザーおよびグループのデータをインポートします。
- C. SAP Commerce は LDAP 内で DSML プロトコルを使用できます。
- D. SAP Commerce は、接続された LDAP システムにアクションを書き込みます。

Answer: B,C (メッセージを残す)

SAP Commerce は、LDAP プロトコルを使用して外部 LDAP システムからユーザーおよびグループのデータをインポートし、LDAP 内で DSML プロトコルを使用します。LDAP は、ネットワーク経由でディレクトリ サービスにアクセスするためのプロトコルです。SAP Commerce は、LDAP を使用して、ユーザーおよびグループのデータを Active Directory や OpenLDAP などの外部ディレクトリ サーバーと同期できます。DSML は、HTTP 経由で XML を使用して LDAP 操作を実行できるようにするプロトコルです。SAP Commerce は、DSML を使用して、このプロトコルをサポートする LDAP サーバーと通信できます。SAP Commerce は、LDAP クエリ結果を ImpEx に変換しません。また、接続された LDAP システムにアクションを書き込みません。参考 :1

最新問題: 23

次のケースのうち、サポート インシデントとして扱う必要があるのはどれですか?注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. パートナーは、カスタム ソリューションの支援を求めて製品サポートに連絡します。
- B. パートナーは、パフォーマンスが遅いプラットフォームに関して製品サポートに問い合わせます。
- C. パートナーがバックオフィスのカスタマイズ方法に関する情報を要求しました。
- D. パートナーは、プロジェクトのアーキテクチャ面に関する専門的なアドバイスを必要としています。

Answer: B,C (メッセージを残す)

サポート インシデントとして扱う必要があるケースは、パフォーマンスが遅いプラットフォームに関してパートナーが製品サポートに連絡する場合、またはパートナーがバックオフィスのカスタマイズ方法に関する情報を要求する場合です。これらのケースは、SAP Commerce Cloud の標準機能に問題がある可能性があること、またはパートナーが製品機能の使用法についてのガイダンスを必要としていることを示しています。他のケースは、製品サポートの範囲を超えるカスタム ソリューションまたはアーキテクチャの側面に関係するため、サポート インシデントではありません。

最新問題: 24

あなたの顧客は、SAP Commerce システムが本番環境でクラッシュするというインシデントを報告しました。何を要求しますか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. 問題を再現するための具体的なシナリオ
- B. クラッシュ直前に取得されたスレッド ダンプ
- C. 運用システムからのデータベース ダンプ
- D. システムの再起動後に取得されたスレッド ダンプ

Answer: A,B ([メッセージを残す](#))

システム クラッシュのトラブルシューティングを行うときに必要となるファイルは、問題を再現するための特定のシナリオと、クラッシュの直前に取得されたスレッド ダンプです。特定のシナリオは、問題の根本原因を特定し、考えられる解決策をテストするのに役立ちます。スレッド ダンプは、スレッドの状態を分析し、デッドロック、メモリ リーク、リソース競合を特定するのに役立ちます。

最新問題: 25

製品サポートは次のうちどれを回避策とみなしますか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. サポート エンジニアは、影響を受ける機能の少なくとも基本的なプロセスを解決する代替ソリューションを提供します。
- B. サポート エンジニアは、影響を受ける機能のコードを変更する方法に関するガイドラインを提供します。
- C. サポート エンジニアは、SAP Commerce のデフォルトの動作をオーバーライドするカスタム Spring Bean を実装および構成する方法に関するガイドラインを提供します。
- D. サポート エンジニアは、修正を含む公式 SAP Commerce パッチを顧客に提供します。

Answer: B,C ([メッセージを残す](#))

最新問題: 26

次のケースのうち、サポート インシデントとして扱う必要があるのはどれですか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. パートナーは、パフォーマンスが遅いプラットフォームに関して製品サポートに問い合わせます。
- B. パートナーがバックオフィスのカスタマイズ方法に関する情報を要求しました。
- C. パートナーは、カスタム ソリューションの支援を求めて製品サポートに連絡します。
- D. パートナーは、プロジェクトのアーキテクチャ面に関する専門的なアドバイスを必要としています。

Answer: ([解答を表示する](#))

最新問題: 27

SAP Commerce のバックオフィス アプリケーションでサポートされているスクリプト言語はどれですか? 注: この質問に対する正解は 3 つあります。

- A. グルーヴィー

- B. BeanShell
- C. パイソン
- D. JavaScript
- E. バッシュ

Answer: ([解答を表示する](#))

SAP Commerce のバックオフィス アプリケーションでサポートされるスクリプト言語は、Groovy、BeanShell、および JavaScript です。これらの言語を使用して、データ操作、テスト、デバッグ、自動化などのさまざまな目的のスクリプトを作成できます。Python と Bash は Backoffice アプリケーションではサポートされていません

最新問題: 28

顧客から DefaultStockService のパフォーマンスの問題が報告されました。SELECT COUNT(*) FROM {StockLevelHistoryEntry} を実行して顧客のシステムをチェックした後、StockLevelHistoryEntry のインスタンスが数億あることがわかりました。このパフォーマンスの問題を解決するにはどうしますか? 注: この質問には正解が 2 つあります。

- A. パフォーマンスを直ちに向上させるために、StockLevelHistoryEntry テーブルの内容をデータベースから直接削除します。
- B. 顧客のビジネス ニーズに応じて StockLevelHistoryEntry テーブルをクリーンアップする CronJob を実装します。
- C. 顧客にメンテナンス リクエストを作成し、改善を提案します。
- D. SAP Commerce 管理コンソールでクリーンアップ タイプ システムを実行します。

Answer: ([解答を表示する](#))

DefaultStockService のパフォーマンスの問題を解決するには、顧客のビジネス ニーズに応じて StockLevelHistoryEntry テーブルをクリーンアップする CronJob を実装し、顧客にメンテナンス リクエストを作成して改善を提案します。CronJob は、テーブルのサイズを削減し、クエリのパフォーマンスを向上させるのに役立ちます。メンテナンス リクエストは、SAP に問題を通知し、可能な機能拡張や修正をリクエストするのに役立ちます。データの不整合や損失が発生する可能性があるため、テーブルの内容をデータベースから直接削除しないでください。StockLevelHistoryEntry テーブルに影響を与えないため、SAP Commerce 管理コンソールで Cleanup Type System を実行しないでください。

最新問題: 29

SAP Commerce クラスター設定はどのように構成しますか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. クラスター内の各ノードにまったく同じクラスター設定を指定します。
%HYBRIS_BIN%/config/local.properties ファイル。
- B. 各クラスター ノードの %HYBRIS_BIN%/config/local.properties ファイルでクラスター設定を指定します。
- C. クラスター ID の自動検出を有効にするために、cluster.node.autodiscovery を True に設定します。

D. 各クラスターノードのクラスター設定を指定します。

%HYBRIS_BIN%/config/tomcat/conf/server.xml ファイル。

Answer: B,C (メッセージを残す)

SAP Commerce クラスター設定は、クラスター ノードごとに %HYBRIS_BIN
%/config/local.properties ファイルで構成できます。ノードごとに異なるクラスター設定
(cluster.id、cluster.broadcast.method、cluster.tcp.port など) を指定できます。ま
た、cluster.node.autodiscovery を True に設定してクラスター ID の自動検出を有効にする
こともできます。これにより、クラスター ID を明示的に指定せずにノードがクラスターに
参加できるようになります。各ノードに同じクラスター設定を指定する必要はな
く、%HYBRIS_BIN%/config/tomcat/conf/server.xml ファイルに指定する必要もありません。

Valid E-C4HYCP-12 Dumps shared by GoShiken.com for Helping Passing E-C4HYCP-12 Exam! GoShiken.com now offer the **newest E-C4HYCP-12 exam dumps**, the GoShiken.com E-C4HYCP-12 exam **questions have been updated** and **answers have been corrected** get the **newest** GoShiken.com E-C4HYCP-12 dumps with Test Engine here: <https://www.goshiken.com/SAP/E-C4HYCP-12-mondaishu.html> (40 Q&As Dumps, **30%OFF** Special Discount: **Freepdfdumps**)